

# 『東北圏だより』



## 新潟駅新幹線・在来線同一ホームが4月15日から供用されます！

新潟県

羽越本線の高速化に向けて、新潟県、新潟市及びJR東日本が連携して、平成20年度から取り組んできた新潟駅における新幹線と在来線の同一ホーム乗り換えが、平成30年4月15日（日）から供用開始されます。

これにより、上越新幹線「とき」と特急「いなほ」が、同じホームで乗り換え可能となり、高齢者や小さなお子さんを抱えた方や、大きな荷物を持った旅行者の方たちは、乗り換え時の上下移動が無くなり、短い距離でスムーズに移動できるようになることで、新潟から山形、秋田へのアクセス利便性が向上されるとともに、負担の軽減に繋がることが期待されます。

羽越本線の沿線は、歴史、食及び自然など、豊かな観光資源に恵まれている地域であり、今回の供用開始により、新潟県と庄内エリアとの周遊促進が図られると期待しております。

さらに、来年の秋には、「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン（DC）」を開催します。これまでのDCでは、「多くの魅力がある新潟」をアピールしてきましたが、今回は「日本海 <sup>ガストロノミー</sup> 美食旅」をメインキャッチフレーズに取組を展開していきます。

人の五感に訴える「食」は、観光において重要な要素であり、両地域の強みである「食」の魅力を中心に、食を生み出した自然、伝統文化、人なども併せ、地域に根差した「食文化」として地域の魅力発信に取り組んでいきます。

実際、県内には、雪深い冬の暮らしを支えた発酵食・保存食などの「雪国文化」、北前船の寄港地として栄えた新潟の「湊町文化」、「イヨボヤ（鮭）の町」と呼ばれる村上の「鮭文化」など、各地域に根差した食文化が残されています。今回のDCでは、こうした食文化を旅のキラー・コンテンツとして発掘・磨き上げ、アピールポイントを明確にして、国内外への発信を進めていきます。

今後とも、国内外から多くの方に来ていただけるよう、新潟市をはじめ、山形県及び秋田県の関係者の皆さまとも連携し、観光資源をはじめとした地域の魅力を磨き上げながら情報発信を行い、交流人口の拡大に繋がりたいと考えております。



▲新潟駅新幹線・在来線同一ホーム乗り換えイメージ  
※乗り換えイメージを表したものであり、実際の状況とは一部異なります。

## 東北圏から3件が「手づくり <sup>ふるさと</sup> 郷土賞」に選定され、認定証授与式が行われました

### 東北地方整備局

「手づくり <sup>ふるさと</sup> 郷土賞」は、全国各地において地域づくりに取り組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する国土交通大臣表彰制度で、平成29年度で32回目の開催となります。

今回、東北圏からは、岩手県一関市の『「骨寺村荘園遺跡」等の保全と地域の活性化を目指す活動』、

宮城県石巻市の『石巻南浜津波復興祈念公園における市民の伝承活動』、新潟県糸魚川市の『100年の景観づくり「枝垂れ桜の咲く里への回り道」』の3件が一般部門で選定され、認定証授与式が、3月7日に石巻市と上越市、3月23日に一関市で行われました。

**『「骨寺村荘園遺跡」等の保全と地域の活性化を目指す活動』（本寺地区地域づくり推進協議会）**

世界遺産「平泉」の関連資産となっている骨寺村荘園遺跡と一関本寺の農村景観を継承するため、平成16年に協議会を発足し様々な活動に取り組んでいます。地区に残される水田を活用した「稲作体験イベント」は、老若男女・地区内外問わず例年400名が参加。田植えや収穫祭が適時開催され、都市・農村間交流が促進されています。平成27年には、市・地権者らが管理協定を締結し、小区画水田が残されている景観の保全と活用強化を図るなど、地区住民が一体となった農村景観保全と継承活動に取り組んでいます。



▲認定証授与式の様子



▲昔ながらの田園風景が引き継がれている「骨寺村荘園遺跡」

**『石巻南浜津波復興祈念公園における市民の伝承活動』**

**（がんばろう！石巻の会、公益社団法人みらいサポート石巻、特定非営利活動法人こころの森）**

震災直後から被災者自身が活動開始。追悼行事、震災伝承、公園内植樹など、3団体が連携・協力し様々な活動を継続し取り組み、祈念公園の下地を築いています。公園整備予定地には団体の活動拠点がおかれ、これまで6万人以上の方が来訪。「がんばろう！石巻」看板が震災直後から設置され、多くの人を励まし続けています。看板製作は石巻の復興・自立にかける人々の思いとともに、現在、地元中学生が継承。3団体の継続した活動が、将来の公園活用に不可欠となる継続した市民活動の礎となっています。



▲認定証授与式の様子



▲公園整備予定地で開催の追悼行事（市民活動拠点）

## 『100年の景観づくり「枝垂れ桜の咲く里への回り道」』

(特定非営利活動法人 徳合ふるさとの会)

「住民が誇りを持てる地域に」と、道路沿いの枝垂れ桜の苗木植樹や草刈り等を実施。費用はアルミ缶の回収・売却や、障害木を伐採し販売した売上げを充てています。少しずつ美しい景観が形成され、平成19年には「日本風景街道」に登録され、平成22年からはハイキング、古民家でのカフェや演奏会などのイベントを実施し、平成29年には参加者が3,300人に増加。関東などからも観光客が訪れています。全国第一弾の「道路協力団体」となり、道の駅と連携した周遊バス運行を開始するなど活動の発展も進めています。



▲認定証授与式の様子



▲枝垂れ桜のハイキングイベント

## 「東北歴史まちづくりサミット2018in多賀城」を開催します

東北地方整備局・宮城県多賀城市

現在、東北管内では、弘前市、白河市、多賀城市、鶴岡市、国見町、磐梯町、桑折町及び大館市（認定順）の8市町が歴史まちづくり計画の認定（歴史的風致維持向上計画の認定）を受け、それぞれが、地域の特性や特色を生かした歴史まちづくりに取り組んでいます。

前回（平成28年11月 白河市において開催）の第2回のサミット時は、認定都市が7市でしたが、それ以降、新たに認定を受けた1市が加わりました。

今般、多賀城市を会場に、第3回目となる「東北歴史まちづくりサミット2018in多賀城」を下記のとおり開催します。8市町の首長が一堂に会し、相互の連携を強化することにより、地域ブランド力を高め、ひいては地域の更なる活性化に寄与するとともに、歴史まちづくりの更なる普及を図ることを目的として開催するものです。

それぞれの地域のまちづくりに参考となるサミットですので、是非ご参加ください。

- 日 時 平成30年5月17日（木）  
13:15～17:15
- 会 場 宮城県多賀城市 多賀城市文化センター（小ホール）
- 申込先 多賀城市建設部都市計画課  
メール [tosikei@city.tagajo.miyagi.jp](mailto:tosikei@city.tagajo.miyagi.jp)  
FAX 022-368-9069  
(申込期限5月10日、**当日参加も可能です。**)

「歴史まちづくり」とは・・・

城や神社・仏閣等の歴史的価値が高い建造物を所有する地域、また、そこでの歴史や伝統を反映した人々の生活や環境の維持・向上を図ることを通じ、後世に継承するための魅力あるまちづくりの事です。

**東北**  
**歴史まちづくりサミット**  
2018  
in多賀城

日時 平成30年5月17日(木)  
13:15~17:15(開場 12:30)  
会場 多賀城市文化センター  
小ホール  
(宮城県多賀城市中央2-27-1)

**入場 無料**

・基調講演  
同志社大学特別客員教授 佐々木 雅幸氏  
・歴史まちづくりの取組状況発表  
弘前市長・多賀城市長・鶴岡市長・磐梯町長  
・パネルディスカッション  
白河市長・多賀城市長・国見町長・桑折町長・大館市長・東北地方整備局長  
コーディネーター 宮城大学教授 舟引 敏明氏

参加申込: 5月10日(木)までにメール又はFAXで下記へ  
記載事項: ①氏名(団体名)、②人数、③連絡先  
申込先: 多賀城市建設部都市計画課  
E-Mail: [toshei@city.tagajo.miyagi.jp](mailto:toshei@city.tagajo.miyagi.jp) FAX: 022-368-9069 後援 / 宮城県

主催 / 国土交通省東北地方整備局・多賀城市  
共催 / 弘前市・白河市・鶴岡市・国見町・桑折町・大館市・磐梯町  
後援 / 東北大学

**プログラム**

13:15 開会あいさつ  
13:25 「全国における歴史まちづくりの動き」  
国土交通省大臣官房審議官 大内 秀彦  
13:40 基調講演  
「歴史まちづくりと創造都市」  
同志社大学特別客員教授 佐々木 雅幸氏  
14:20 歴史まちづくりの取組状況発表  
弘前市長・多賀城市長・鶴岡市長・磐梯町長  
15:15 パネルディスカッション  
「公民連携による歴史まちづくり」  
17:15 閉会

●基調講演・コメンテーター  
同志社大学経済学特別客員教授  
次郎市立大学名誉教授  
文化庁地域文化振興室主任研究官  
創造都市ネットワーク日本協同  
文化振興会文化政策部会委員  
日本文化遺産研究会の第一人者でユ  
ネスコ創造都市ネットワークや東アジア  
文化都市アドバイザーとして活躍。  
佐々木 雅幸氏

●パネリスト  
白河市長 鈴木 雅夫  
国見町長 太田 久雄  
桑折町長 高橋 直博  
大館市長 榎岡 淳朗  
多賀城市長 船地 隆次郎  
東北地方整備局長 津田 俊一

●コーディネーター  
宮城大学 養老樹博子 教授  
日本都市計画学会理事、宮城県都市計  
画協会会長、宮城県都市計画協会の  
長(自治体都市の連携を促す)を筆頭  
副会長、国土交通省、秋田県大館市、  
鶴岡市で歴史的まちづくりに関する調査  
委員などを務める。  
宮城大学都市計画学助教授、専任講師、  
先任専任学務管理官、専任准、歴史的  
まちづくりなどの互換に携わる。  
舟引 敏明氏

◇ 開催市・多賀城市から  
東大寺は創建以来、二度にわたる大きな災禍により大仏や伽藍の多くを失  
失するなど、苦難に遭いながらも、いつの時代も多くの人々の力を結集し、修  
復し復興を遂げてきました。東大寺はその復興を遂げた文化や歴史をも  
創出した文化遺産として後世に受け継がれています。  
一方、東北地方においても、古代から火災や自然災害から復興を遂げた  
歴史があり、特に、平安文化圏に形成するといわれる長祿11(869)年に  
発生した大寺火災は、地方文化の発展に大きな役割を果たしています。  
歴史では、東大寺の創建から鎌倉・江戸時代の復興について、多数の調査、  
発掘や対比調査されている資料から紹介していただき、文化遺産に関わ  
る東北と大寺の時代別東北地方を巡る歴史的な大寺復興からの復興の歴  
史についても紹介します。

【お問い合わせ先】  
◇ 国土交通省東北地方整備局 建設部 計画管理課 TEL:022-225-2171(代表)  
◇ 多賀城市 建設部 都市計画課 TEL:022-368-1141(代表)

## 平成28年度フォローアップ結果の公表について

## 東北圏広域地方計画推進室

3月28日(水)に東北圏広域地方計画の平成28年度フォローアップ結果を公表しました。取りまとめ結果は、下記ホームページに掲載しております。

→ <http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/top.html>

## 編集後記

新年度がスタートしました。構成機関の皆様、1年間どうぞよろしくお願ひいたします。4月期の人事異動により、事務局メンバーも半数以上入れ替えがありました。新体制でも引き続き東北圏広域地方計画の推進に向け取り組んで参りますので、皆様ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス: [thr-kou-suishin2@mlit.go.jp](mailto:thr-kou-suishin2@mlit.go.jp)